２班　野球場エリア

A. 全員での評価軸

評価軸	評価とその理由
日陰の適度さ	・北西は樹木が多くて暗い。南東は明るい。 ・サクラ並木は冬は陽が入る。常緑樹のところは一年中暗い。 ・道が細くて樹が多いと暗い。北は樹が少なくて明るい。 ・サクラ並木は明るいが、基本的にこのエリアは樹が多いため暗い。 ・樹が多いと森林浴ができる。東は日陰が程良く快適な散歩が出来る。南は大きい建物により日陰ができている。 ◎サクラ並木は明るいが、基本的に樹が多くて暗い・見通しづらい。イメージとして人が通らない、マイナスイメージ。
植え方の適切さ	・サクラは程良い。しかし南東の角や斜面のあたりは低木が荒れ気味である。 ・サクラはお花見に良い。樹が繁り過ぎているところは切った方がいい。 ・スタンドの方は樹が等間隔で良い。ちょっと樹の本数が多いので雑多な印象を受ける。 ・コンクリート道路が歩くところを指定しているため、樹が生えているところには人が入らない。よって踏圧の問題はあまりない。自然に生えている感じが良い。 ・植えられている間隔がちょうどよい。 ◎自然的な植え方で木には優しいので良い。また、サクラ並木の木の間隔が良い。
場に対する景観のふさわしさ	・木によって囲まれているので“野球場”という区画で割られている感じで良い。 ・樹のせいで野球をしているところが見えない。 （・手入れが中途半端なので雑な印象を受ける） ・お花見に行くところというイメージがある。これはサクラの存在によるが、さらにこれが歴史を感じさせる。 ・木が繁っていて森林浴ができる。それは学校の“隅っこ”に合っている。 ・一部荒れているところは汚い。 ◎“隅っこ”“花見の場所”としては良い。“見られる野球場”としては良くない。
生物種の豊富さ	・面積のわりに豊富。

	・土の中に昆虫もいた。 （・人間が少ない。） ・鳥の声がする（鳥がいる） ・雑草が多く、そこに暮らす虫もいる。 ・他のエリアにはない樹種が多い。 ・１種あたりの本数が多い樹種が多い。つまり、メインの樹種が１つでない。 ・樹種の数はそこまで多くない。
体感温度の快適さ	◎夏は涼しそう。冬はどこでも変わらない。 ・樹が多いところは日陰で寒くなる。 ・サクラがあるところは葉が繁って夏は快適。 　北西の照葉樹のところは枝が多い木が多くて寒々しい ・冬は寒い。並木のところは年中快適（特に夏の早朝）。 ・日当たりが気温に影響を与えている ◎樹の多さ・樹種（・風通）により、冬は寒く夏は快適な環境になっている。

B.グループでの評価軸

評価軸	評価とその理由
滞在性	・春の間、サクラ並木ではゆっくりしたくなる。しかし他の季節は、通り過ぎるだけの場所。 ・自然に囲まれて安らげる。総じて高評価。 ・サクラ並木は座るのも良いし、歩くのも良い。西や北は暗くてすわ座る気になれないし、寒々しい。 ・秋~冬はあまりいたくならない。 ・秋~冬のサクラ並木は木漏れ日ができてよい。 ・一人になれるから良い。
季節感の有無	――――（議論する時間なし）
サウンドスケープ	・野球やラグビーやテニスの練習の声や音 ・外の通りのトラックなどの車の音 ・鳥の声 ・虫の声 ・木をはさむことで車の音が遠く感じる（遮断・緩和作用） ・木々のざわめき ・木が多ければ、より遮断される ◎車の音以外は良し

匂い	――――（議論する時間なし）
外部との接続性	――――（議論する時間なし）

C.個人的意見

・雑木林で遊べる（鬼ごっこ、お花見、ネイチャーゲームなど）

・構内メインストリートからのアクセスが悪い。もっとにぎわいがほしい。

・北側は日陰で涼しい。

・整っていない自然。

・スポーツしているイメージの場所。

・土手だからサクラで囲まれている感じになる。

D.エリアをもっと素敵にする方法

◎アクセスを良くする

・メインストリートにつなげる（南西側、サクラ並木から南に）

◎景観を良くする

・下草を綺麗に手入れする

・野球場の芝生も手入れする

◎人を呼び込む、来やすくする

・サクラ並木の歩道のアスファルトがガタガタしているのを直す

◎サクラをもっと多くの人が楽しめるようにする

・サクラ並木のベンチを増やす

・サクラの下草を整える